

4. 研究会「講師」からの思い出と祝辞

祝 100 回
私と自立研究会北村 絹江
(第 27 回例会講師 (有)北山)

私と森山先生との出会いは、介護用品販売の中村和子さんのご紹介でした。私は三、四人でボランティア「まあい輪」の活動をしておりました。

平成 9 年 2 月に「フォーラムよこはま交流ラウンジ」(ランドマークタワー 13 階)で、シニアライフプランフェアを開催しました。その際に森山先生に「心のバリアフリー」と題して体験談を講演していただき、大変好評でした。

そのことがきっかけで、それ以来、様々なことで相談したり、沢山のご指導をして頂きました。

そして、お役に立てばと平成 10 年の 4 月の例会では「障害者の生活補助器具」について皆様にご説明する機会を頂きました。皆様は真剣で、復職しても片手しか使えないのに、電話とどう取り組むかなど苦勞の体験談もありました。皆さんのお話は、当時、食事関連商品の販売をしておりました私に、貴重なヒントを下さいました。それが「食楽テーブル・トレター」開発の原因になったのです。おかげさまで横浜市と全国の発明工夫展で奨励賞をいただく商品にまでなりました。

その後は不自由な方のために少しでもお役に立つことができれば良いと思いつつ、残念ながら技術力と資金力の制約で、現在は開発を中止しております。積極的な販売はしていませんが、ご希望があればいつでもご提供いたします。

しかし、私のような一人で、ここまで出来たことは奇跡でした。それもこれも皆森山先生を始め江寄様他皆様との出会いと協力の賜物と厚くお礼を申し上げます。

自立研究会の皆様のご活躍は本当に素晴らしいと存じます。何より継続されていること、地域社会に皆様の経験を元に様々なご提案をされて、重たい行政を動かされる力は、他にない説得力と行動力があるからと感銘しております。

そして、病気でご不自由になられた方々に自立研究会の存在をもっともっと知っていただき勇気を与えてくださるようお願いいたします。

雑誌『やさしい手』の取材で風邪の予防法など、とても良かったと思います。『心が動く』の出版記念では、つたない司会を努めさせて頂き、今思うと、穴があれば入りたい思いでございます。

年とともに「ずぼら」な自分が居て「恥知らず」の自分を振り返っております。

現在は介護の仕事を通して、皆様の勇気ある活動の紹介や、精神的な高揚の図れるケアを心がけています。

どうか 150 回～200 回例会が続けられることを願いつつ、お祝いのコメントとさせていただきます。

有難うございました。会員皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。